

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	美術表現科	2021年度	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	デッサン基礎 I	実習・実技	永井俊一、飯美樹 大家泰仁 工藤里紗
授業の到達目標	デッサンの具体的な手順を理解する。デッサンをするうえで重要な要素(構図、光と影)を理解する。明暗の観察。背景が絵画において重要な要素であることを学ぶ。素材の違いによる表現の違いを体感する。		
授業の内容	<p>デッサンは合理的な手順をふめば三次元にある事物を紙面に置き換えることができる。石膏デッサンでは、木炭の素材とその扱い方及びデッサン用具の使い方やモチーフをよく観察する方法から始めていく。アカデミックなデッサン教育の柱となるギリシャ・ローマ時代の彫刻を模した石膏像をモチーフとする。この時代の彫刻は、理想的なプロポーションやバランスの取れた量感を表現の核としているため、描くこと自体が美しいものに触れることになる。また白無地であることでデッサンの基本的な形や明暗を描くトレーニングに適している。</p> <p>通常人体は外見を観察して描く。ただ身体の外見は、骨格や筋肉等の内部の構造と表裏一体にある。解剖学概論では、模造紙代の大きな画面に人体を描き、その描いた像の上から骨格を描く。身体の外側と内側の両方からの作画を通じて、人体の形の理解を深める。</p> <p>モチーフを観察していると、それ自体がどのように成長して、現在の形を得ているかという動きがみえてくる。塑像の授業では外観を輪郭的に、あるいは色でとらえるだけでなく、物の構造や質感、内部で動いた力の方向性と表面の質の関係などに着目し、表現することを試みる。</p>		
授業計画 及び 学習の内容			
I-1 石膏デッサン (4コマ)			
デッサンの基本的な知識と手順を学ぶ。			
「構図・形・光と影」を意識して、立体的なものの見方と表現方法を学ぶ。			
I-2 解剖学概論 (7コマ)			
人体の基本的な構造(主に骨格)について学ぶ。			
解剖学の視点から身体を観察し、描写することを通じて人体の理解を深める。			
I-3 塑像 (4コマ)			
対象物の「構造・質感・量感」など、立体としての物の捉え方を学ぶ。			
成績評価の方法			
・課題提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況			
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)			
教員プロフィール参照 担当教員のうち1名は、一般企業において長く商品アート制作、商品デザインに従事。また美術館と大学の共同プロジェクトにも参加し、社会貢献活動も行っている。			
授業初日持ち物		学校で準備する教材など	
木炭・鉛筆デッサン用具一式、 木炭紙、上質紙(四六判) 作業着・不要な布・クロッキー帳・描画道具 粘土ペラ		基礎形体、幾何形体、石膏像 人体骨格見本・解剖図 モデル(男性、連続固定ポーズ)・プロジェクター・スクリーン モチーフ(野菜)・心棒の道具・粘土・回転台・塑像版	
配付資料			

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	美術表現科		2021年度	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	デッサン基礎 II	実習・実技	菊地達也 姚小全 永井俊一 中嶋明	4
授業の到達目標	対象物の裏側や内面などまでも、構造物として捉える事の重要性を学ぶ。クロッキーの基本的な知識と技法を学ぶ。人体の基本的構造を踏まえ、様々なポーズの人体を描写する。画面構成の為の基本的な構図の効果と表現方法を学ぶ。「観察・描写」を踏まえたうえで「発想力」を加えた絵作りを学ぶ。			

授業の内容	<p>共通 I-4 「見えていないところを描く」 上手に描くのが目的ではない。むしろ下手で丁寧、真面目な作品が次の作品で効果を出す。カンニングはしないこと！この課題ではモチーフを見て描くこと以外の可能性を試みていく。このトレーニングは観察描写としてのデッサンから、想像を具体的な形として描くことに発展させていくことが狙いであり、今後の制作活動を支えていくと考える。来たるべきAI時代は個性が重要視される。その個性に説得力を持たせるカリキュラム。今風に言うなら、3Dソフトを統一規格のPCではなく、個性豊かな皆さんの脳にインストールするということだろうか？ モチーフ、資料の通り描くのではなく、ある条件のもとに制作する。</p> <p>共通 I-5 「クロッキー(着衣)」 5分、10分、20分 など、短い時間でポーズを変えて何枚も描画する。正確な形をとらえる事だけを目的とせず、勢いのある長い線で体全体を画面に入れるようにしよう。表面や細部よりも、大きな動き、流れ、バランス を意識した人体描写を目指す。ネリゴムはあまり使用しません。 【モデル授業の注意事項(学校より)】 ポーズの始まりと終わりには挨拶をしましょう。原則としてモデルさんには話しかけないこと。写真撮影は禁止。携帯・スマートフォンはカバンの中に入れておくこと。室温はモデルさんを基準に設定します。</p> <p>「構成静物」 設定された静物を画面の縦位置、横位置での構図効果を考慮して一枚の絵として完成する 1日目2日目は同じ場所にイーゼルを置いて同じ方向から描き3日目は別の場所を選んで描く 1日1枚計3枚の鉛筆画を制作する 1日目 縦位置 2日目 横位置 3日目 縦横の位置は自由 4日目 講評 「構成デッサン」</p> <p>課題1 ① テーブルに並んだ4つの静物の中から組み合わせたいものを選ぶ ② 選んだモチーフを組み合わせ各自が静物風景を作り鉛筆でいくつかのスケッチを試す(必ず複数を選ぶ、全部でも可) 注:それぞれのモチーフは物理的に床面に接地出来ること ③ 選んだスケッチを基にしてモチーフを見ながらデッサンをして1枚の鉛筆画を完成する 注:画用紙の縦位置横位置にも考慮する</p> <p>課題2 ① テーブルに並んだ4つの静物の中から組み合わせたいものを選ぶ ② 選んだモチーフを組み合わせ各自が静物風景を作り鉛筆でいくつかのスケッチを試す(必ず複数を選ぶ、全部でも可) 注:それぞれのモチーフは物理的に床面に接地出来ること ③ 選んだスケッチを基にして別に用意した2種類の布を被せた台のどちらかの上に置いた状態を想定してモチーフを見ながらデッサンをして1枚の鉛筆画を完成する</p>
-------	--

授業計画 及び 学習の内容	
共通 I-4 見えていないところを描く 2コマ	
初日 前提講義 最終日 講評会	
共通 I-5 クロッキー(着衣) 2コマ	
初日 前提講義 最終日 講評会	
共通 I-6 構成静物 4コマ	
初日 前提講義 最終日 講評会	
共通 I-7 構成デッサン 8コマ	
初日 前提講義 最終日 講評会	

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
教員プロフィール参照

授業持ち物 鉛筆デッサン用具一式、 木炭デッサン用具一式 クロッキー帳、クロッキー用具 画用紙	学校で準備する教材など スライド モデル 木炭紙大のクロッキー帳(デモンストレーション用) 4B～6B程度の鉛筆(デモンストレーション用)
配付資料	

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	美術表現科	2021年度	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	美術表現演習	実習・実技	塚本聡 菊地達也 清水健太郎
授業の到達目標	<p>絵画制作—静物デッサン2(大型静物) 大型モチーフの部分を切り取って画面に収めるプロセスを通して、全体構成力を高め、空間の意識を深める姿勢を修得する。 絵画制作—エスキース制作 修了制作に向けて自身が興味ある画題について探り、作品として仕上げるための造形的思考を深めるプロセスを学ぶ。</p>		
授業の内容	<p>「絵画制作—静物デッサン2(大型静物)」 ほぼ全てのモチーフを描くこれまでの静物画とは異なり、与えられた大型モチーフの部分を切り取って描く。主役となるモチーフ部分を決め、自分の考えをより良く表現できる構図を熟考すること。例外としては、色、光や影、空間などを主役的に扱うことも可能。また今回の課題では、複数のモチーフの関係やそれを取り巻く空間を意識して制作することが重要。 「絵画制作—エスキース制作」 修了制作に向けての初段階として、自身が興味あるモチーフやテーマについて探り、作品化するにあたっての造形的思考を深めるためのプロセスを体験する。 ・表現への多様なアプローチの紹介 ・資料の収集と扱い方 ・イメージと素材の関係 ・複数のエスキースによる多角的表現の模索 ・テーマや独自の視点の掘り下げ 以上を講義と実習をとおして学ぶ。(完成度よりアイデアやイメージの積極的な創出を期待)</p>		
授業計画 及び 学習の内容			
「絵画制作—静物デッサン2(大型静物)」			
前提講義 制作 講評会			
「絵画制作—エスキース制作」			
前提講義 制作(屋外スケッチ) 講評会			
成績評価の方法			
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況			
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)			
教員プロフィール参照			
授業持ち物 大型静物 ・クロッキー帳(エスキース用) ・20～25号キャンパス ・油彩道具 エスキース 画材は自由(水彩やアクリル・色鉛筆等の色材を持参してください) 支持体の素材は自由 サイズはB2～B3程度(1～2点制作) クロッキー帳 各自の制作に向けてのモチーフ(持参可能であれば)や資料(写真や印刷物など)	学校で準備する教材など モチーフ 前提講義でPCとプロジェクター使用 ベニヤ板 人数分 (エスキース貼り付け用)		
配付資料			

開講課程	開講学科	開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	美術表現科	2021年度	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	美術表現基礎Ⅰ	実習・実技	清水健太郎 森吉健 永井俊一 中嶋明

授業の到達目標	<p>絵画制作—基礎導入 油彩画材についての基本的な知識と制作手順を学ぶ。 題材の選び方から構図の重要性を理解する。</p> <p>絵画制作—石膏デッサン 明るい部分と暗い部分の階調変化を描写する。 どの場所から描いたとしても常に安定した構図で画面を収めることに留意する。</p> <p>絵画制作—人体1肖像画 モデルの顔を客観的に観察し、骨格や筋肉などの構造を理解する。 その上でモデルの個性や魅力を自分なりに発見して表現する。</p> <p>絵画制作—人体2ヌード モデルをよく観察して人体の機能的なバランスの美しさを発見する。 肌の質感、光と影、画面全体の空間意識などに注意して作品を完成させる。</p>
---------	---

授業の内容	<p>「絵画制作 基礎導入」 画材についての基本的な知識を身につけると共に、絵具の持つ表情の豊かさを探る。今後油絵を描いていく上での基本的な知識を知り、油絵を描いていく上での手順を学ぶ。静物画課題の取り組み方を理解し、構図、下書き、着彩、それぞれの手順や留意点を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵具の構造や特性について ・画材の準備や扱い方について ・支持体について(キャンバスの張り方) ・絵具による混色とマチエールの多様性 <p>以上を講義と実習をとおして学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作の準備及び基本的な制作手順の解説 ・パレットへの色置き、混色 ・明暗と色彩の関係 ・構図の考え方 ・画布への表現の多様性 ・質感表現 <p>以上を講義と実習をとおして学ぶ。</p> <p>「絵画制作—石膏デッサン」 この授業では、石膏像をモチーフとしデッサン制作する。 西洋画のアカデミックなデッサン教育の柱である、ギリシャ、ローマ時代の彫刻を模した石膏像をモチーフに使う。この時代の彫刻は理想的なプロポーションやバランスの取れた量感を表現の核としているため、描くこと自体で美しいものに触れることになる。また、石膏像が白無地であることは、デッサンの基本的な形や明暗を描くトレーニングに適している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石膏デッサンは首像、胸像、半身像、全身像 というように難易度が増す。 ・進める上でのデッサンの手順や方法を確認する。 ・首像を顔として認識せずにモチーフとして正確に対象を把握する。 ・安定した構図で画面を収めることに留意する。 ・明暗をよく観察し、階調変化を表現する。 <p>「絵画制作—人体1肖像画(着彩)」 顔を中心に鉛筆もしくは木炭のデッサンから始め、人物の上半身を肖像画として描く。 長い歴史の中で描かれてきた数々の名画を参照し、自分のスタイルを探りながら描いていく。 個人としての人物を描きながら、人類として普遍的である人間の顔を描く。</p> <p>「絵画制作—人体2ヌード」 油彩の画材の段階的プロセスを実習を通じて習得していく。 絵の具の特質を理解し、形体と色彩を統合した空間表現を学んでいく。静物画実習の油彩画・デッサンにおける人体の認識を踏まえ、人体表現を学んでいく。 肌色とその明暗表現を、過去の巨匠たちの作例も参照しながら研究する。 人体をデッサンの時と同様に構造として理解し、プロポーション、コンポジション、ムーヴマン等に留意する。</p>
-------	---

授業計画 及び 学習の内容	
絵画制作—基礎導入 27コマ	前提講義 エスキース制作 キャンバス張り実施 制作 中間講評 制作 講評会
絵画制作—石膏デッサン 8コマ	初日 前提講義 制作 最終日 講評会
絵画制作—人体1肖像画 8コマ	前提講義 エスキース制作 制作 講評会
絵画制作—人体2ヌード 8コマ	初日 前提講義 制作 最終日 講評会
成績評価の方法	
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況	

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
教員プロフィール参照

<p>授業持ち物 油絵用具一式 クロッキー帳、クロッキー用具 F10号キャンバス F15号キャンバス TMKポスター紙</p>	<p>学校で準備する教材など デモ用の用具、キャンバス張り器、金づち、ペンチ、木枠、カットキャンバス、キャンバス用釘、無地布+柄布 幾何石膏 その他、質感と色の異なる物を数点(ガラス器、瓶、ホーローなど) モデル</p>
---	--

配付資料

開講課程	開講学科		開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	美術表現科		2021年度	前期・後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	美術表現基礎Ⅱ	実習・実技	中嶋明 菊池達也 永井俊一 姚小全	6

授業の到達目標	<p>絵画制作—額装・展示実習 額装の種類と額装の仕方の基本を学ぶ 絵画制作—コラージュ コラージュの基本的な考え方と技法を学ぶ 画面を構成する様々な要素(形・色・質感・空間など)を意識して制作する。 絵画制作—静物デッサン1(剥製) モチーフをよく観察して、動物独自のプロポーション、毛並みや羽毛などの質感を表現する。 モチーフ同士の関係性や質感の違いを意識して画面上の空間を表現する。</p>
---------	--

授業の内容	<p>「絵画制作—額装・展示実習」 額の種類(現物)を見せて説明する 様々な額装の種類を説明する 額装の仕方(紐がけなど)を実際にやって見せる 展示の際の高さなどを説明する 「絵画制作—コラージュ」 ・まずはデッサンから始め、構図等を決めて行く。 ・モンタージュ(合成)のように場面場面の写真を組み合わせるのではなく、貼り込む物は写真を含め、あくまでもモチーフを描く描画材として扱う。 ・全然関係のない写真や印刷物が、モチーフを形成してゆく様を確認しながら、ある種の統一性を見極め作業を進める。 絵画制作発想(コラージュによる制作) ピカソ、ブラックが始めたと言われる技法で正に現代絵画の扉を開くものとなった。 画面に新聞紙等の印刷物を張り込んで制作する技法である。仕上がった時もその印刷物が絵の一部になり、必要不可欠な存在になって完成度をより高めるものでなければ意味がない。当時は絵の一部に印刷物を貼り込む程度だったが、今では画面全体がコラージュで埋め尽くされる作品もあり、さらには立体まで張り付けるもの(アッサンブラージュ)が登場し多様化している。 一般的に対象物を描くとき、それに相応し絵の具や技法を自ら選択し作業を施して行くため、絵は良くも悪くも描き手の個性や癖で飽和状態になって行く。 そんな中に投入される印刷物等はそれらが介在しない分、業とらしさが無くリズムの変化をもたらし、絵を活性化してくれる。 適切に選択されたものは画中に於いて、そのもの自体も良く引き立ち、周囲とも響き合う。 講座では、画面全体を原則コラージュで制作するが、加筆も限定的に施し完成させる。 「絵画制作—静物デッサン1(剥製)」 ・動物の自然なプロポーション、質感が表現できるか。 ・物と物との関わり合いが観察、表現できるか。 動物剥製は静物のモチーフとしてとても魅力あるものです。もちろん生き物ですから有機的な形態、表情、色合いなど人工物と組み合わせることでより一層デッサンを楽しんでくれます。大きめのモチーフのなかからどこを見せ場にするかや、各自の興味、視点が強く出せると思います。</p>
-------	---

授業計画 及び 学習の内容	
絵画制作—額装・展示実習 1コマ	
講義・実習	
絵画制作—コラージュ 12コマ	
前提講義 制作 講評会	
絵画制作—静物デッサン1(剥製) 8コマ	
前提講義 制作 講評会	

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
教員プロフィール参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙(英字がおすすめ) ・写真や印刷物、和紙、その他平面に添付可能なもの ・油彩以外の絵具、インク ・接着剤 ・カッター、ハサミ ・スケッチブック(クロッキー帳)、画用紙(B2サイズ) ・B2パネル(水張り用) 水張り用テープ <p>クロッキー帳(エスキース用)、鉛筆デッサン用具一式 油絵用具一式 10~15センチサイズ</p> <p>配付資料</p>	<p>学校で準備する教材など</p> <p>額の種類 水張りの道具(デモンストレーション用) 静物モチーフ</p>
--	---

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	学期
文化専門課程(1年制)	美術表現科	2021年度	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	表現演習基礎	講義・演習	中嶋明 永井俊一 菊地達也
			単位
			4

授業の到達目標	<p>想定デッサンの授業では「構図・形態・質感・明暗」を意識して「発想力」を活かした独自の画面を作る。色彩構成では、色彩についての基本的な知識を学ぶ。それぞれの色が持つ特性を理解し、効果的な色面を構成する方法を学ぶ。</p> <p>想定着彩の授業では、「観察・描写」をふまえたうえで「色の特性」を活かした表現を学ぶ。</p>
---------	--

授業の内容	<p>「想定デッサン」 絵画、彫刻、写真、イラストなどから気に入った図像を1枚以上持ってくる。学校からは1枚の図像を渡す。持ってきた図像と与えられた図像を組み合わせて1枚の鉛筆画を制作する。組み合わせは1枚の持参図像からでも複数の持参図像からでも可。絵のモチーフはとすればこれまでの絵画経験や嗜好、憧れから発想されることが多く、絵の傾向が偏りがちになる。 他者から与えられた予期せぬ図像を自身の選んだ図像に組み合わせて新たなイメージでの画面構成をすることにより「発想力」を意識して制作を進める。</p> <p>「色彩構成」 前半は、色の三属性(色彩・明度・彩度)に関する講義と、トータルカラーを切ったり貼ったりして小さな課題を繰り返す。色彩の知識をみにつける。 後半は、事前に各自制作した「アートブック」を素材にし、みにつけた知識を活かして作品を制作する。最終日に講評します。</p> <p>「想定着彩」 共通授業の最終課題は、今まで学んできたことを活かして、一枚の作品を制作する。立体的なものの見方、人体の捉え方、画面構成、発想、明暗、色彩などを意識して、4月から描き貯めた作品を見返すことから始めよう。一つ一つの課題が自分自身の作品作りにつながっていることに気づくはず。 共通授業を通して学んだことを、これから制作する各コースの専門課題で活かしましょう。</p>
-------	---

授業計画 及び 学習の内容

I-8 想定デッサン(4コマ)	「構成静物」「構成デッサン」では設定された現実のモチーフを「描写」したが、「想定デッサン」では、平面画像から授業目標を踏まえての「描写」となるよう意識して描く。
I-9 色彩構成(12コマ)	色彩に関する講義と課題制作
	最終日、講評会
I-10 想定着彩(4コマ)	4月からの授業で学んだことをいかして、1枚の作品を作る。

成績評価の方法
・課題提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照 担当教員のうち1名は海外美術館で研修、また複数の大学で指導経験あり。

授業持ち物 【想定デッサン】 絵画、彫刻、写真、イラストなどから気に入った図像を1枚以上持参。 鉛筆、消しゴム、カッター、クロッキー帳(B3) 画用紙(B3) 【色彩構成】 スケッチブック、はさみ、カッターナイフ、のり、定規 筆、パレット、筆洗、トータルカラー 【想定着彩】 鉛筆、消しゴム、カッター、クロッキー帳 彩色できる画材、色鉛筆、水彩絵の具、水彩筆など。 画用紙(B2)	学校で準備する教材など 配付図像(1枚) アクリルガッシュ、筆、トータルカラー、課題用紙、カッターマット、ホッチキス、PCと画面 モチーフ、説明資料
配付資料	